

科 目 名：訪問歯科診療

担 当 教 員：吉羽 邦彦、柴田 佐都子、米澤 大輔、真柄 仁、菊永 淳（保）、田口 めぐみ（保）、西村 裕美子（非）、兼岡 麻子（非）、江面 晃（非）

開 講 番 号：200DA401

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：1 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

要介護者の施設および在宅での訪問歯科診療を行うにあたり、歯科衛生士として必要な全身的配慮、摂食嚥下機能評価、感染予防管理、訪問歯科診療の現状と問題点について学習する。

※歯科医師、歯科衛生士としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

施設および在宅での訪問歯科診療における歯科衛生士の業務を安全に行うために有病者の全身的配慮、摂食嚥下機能回復法と口腔ケア法を習得する。

【学習の到達目標】

- ・ 高齢有病者に対してケアを行う際の疾病に応じた全身的配慮ができる。
- ・ 要介護高齢者および障害児の摂食嚥下リハビリの基本的な手技ができる。
- ・ 訪問歯科診療における診療補助および歯科保健指導で配慮する点を説明できる。

【授業形態】

学外実習と非常勤講師による講義を行う。学外実習は施設および在宅での訪問歯科診療見学を行う。実習の訪問先と日時は個別に連絡する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/10（金）1-2限	有病者に対するケアを行うときの全身的な配慮（1）（田口、米澤）	講義プリントによる要点確認
2	4/24（金）1-2限	有病者に対するケアを行うときの全身的な配慮（2）（菊永、小田島）	講義プリントによる要点確認
3	5/15（金）1-2限	訪問看護の実際（西村、小田島）	講義プリントによる要点確認
4	5/22（金）1-2限	臨床と研究を循環する摂食嚥下リハビリテーションの実際（兼岡、柴田）	講義プリントによる要点確認
5	5/29（金）3-4限	訪問歯科診療の現状（江面、小田島）	講義プリントによる要点確認
6	指定日時	学外見学実習（米澤、吉羽）	臨床実習の手引による実習内容確認

【成績評価の方法と基準】

講義レポート（50%）および訪問歯科診療見学実施報告書（50%）により評価する。

【使用テキスト】

指定しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

科目名：歯科衛生士臨床実習Ⅱ

担当教員：吉羽 邦彦、葎原 明弘、山崎 和久、小野 和宏、大内 章嗣、黒川 孝一、柴田 佐都子、米澤 大輔、諏訪問 加奈、小田島 あゆ子、大湊 麗、茂呂 寛 (医)、中川 雄真 (医)、外山 聡 (医)、池上 由美子 (非)、兼岡 麻子 (非)、藤原 千尋 (非)、山野井 敬彦 (病)、上路 拓美 (病)、五十嵐 文枝 (病)、川口 玲 (病)、野田 順子 (病)

開講番号：200DA402

開講学期：通年

水準：14

単位数：14単位

対象学部等：口腔生命福祉学科4年生

【科目概要】

これまでPBL、講義や実習で学習した歯科診療補助、予防処置、保健指導などの歯科衛生士業務を、実際の臨床の現場で歯科医師および歯科衛生士の指導の下で病院患者に対して実践する診療参加型実習を行う。

※歯科医師、歯科衛生士としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

歯科衛生士として独立業務が行えるようになるために、病院での患者診療に参加することによって保健指導、予防処置および診療補助を総合的に実践する。また、歯科衛生士業務の理解を深め、知識をより確実なものとするとともに、基本的な技能を修得して、医療人としての意識を高める。

【学習の到達目標】

- ・患者および病院スタッフとコミュニケーションがとれる。
- ・病院における各職種の役割を知り、チーム医療の実際を理解できる。
- ・療法別の診療介助ができる。
- ・歯科医師の指示・指導の下で患者の保健指導と予防処置の診療補助ができる。
- ・摂食嚥下リハビリテーションでの歯科衛生士の役割を説明できる。
- ・特殊歯科診療における歯科衛生士の役割が説明できる。
- ・周術期口腔ケアにおける歯科衛生士の役割が説明できる。

【授業形態】

新潟大学医歯学総合病院での実習および臨床講義を行う。実習は基本診療科および特殊診療科をローテイトして診療補助に従事し、お口の健康室では担当患者の予防処置と保健指導を行う。

【履修上の注意】

- ・オリエンテーションの際に実習の手引きを配布するため、よく読んで実習に取り組むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容 (担当)	準備学習 (予習範囲)
1	4/1-3 4/6-12/3	臨床実習オリエンテーション (実習担当教職員) (月-木、夏期休業を除く) 各診療科におけるローテーション実習およびお口の健康室での実習 (実習担当教職員)	臨床実習の手引による実習内容確認
〈臨床講義〉			
2	5/8 (金) 3-4限	急性期から在宅につなげる医療連携の実際 (藤原、柴田)	講義プリントによる要点確認
3	5/22 (金) 3-4限	急性期病院における摂食嚥下リハビリテーションの実際 (兼岡、柴田)	講義プリントによる要点確認
4	7/10 (金) 1-4限	周術期の口腔ケア (池上、柴田、諏訪問)	講義プリントによる要点確認
5	8/28 (金) 3-4限	HIV感染症、AIDSへの関わり (茂呂、川口、野田、中川、小田島)	講義プリントによる要点確認
6	9/4 (金) 1限	大学病院における各職種の役割 (理学療法士、作業療法士) (上路、五十嵐、小田島)	講義プリントによる要点確認
7	9/4 (金) 2限	大学病院における各職種の役割 (歯科技工士) (山野井、小田島)	講義プリントによる要点確認
8	9/4 (金) 3限	大学病院における各職種の役割 (言語聴覚士、薬剤師) (大湊、外山、小田島)	講義プリントによる要点確認
9	9/11 (金) 1-2限	中間評価 (柴田、諏訪問)	臨床実習の手引、臨床実習記録による実習内容確認

【成績評価の方法と基準】

実習ケースを計200例以上行い、かつ、各臨床分野が行う実習評価の合計点で60点以上を修得した者を合格とする。なお、実習ケース不足又は各臨床分野が行う実習評価で1分野でも60点未満であれば、再履修させるものとする。最終成績は各臨床分野の実習評価 (100%) により決定する。

【使用テキスト】

指定しない。必要に応じて資料等を配布する。

科 目 名：社会福祉現場実習

担 当 教 員：高橋 英樹、大内 章嗣、中村 健、黒川 孝一、米澤 大輔

開 講 番 号：200DA403

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：4 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

これまでに履修した社会福祉関係科目における学習を基盤に、実習体験をととして社会福祉士に求められる実践力の向上を図る。

※社会福祉関係の実務経験のある教員が、その経験を活かし、社会福祉現場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

社会福祉の実践現場における実習を通して、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」及び「社会福祉現場実習指導Ⅰ」の履修により学習した専門的相談援助活動を実践するために必要な態度（価値と倫理）、知識、技能を習得する。

【学習の到達目標】

- ・社会福祉施設・事業者・機関・団体等において援助の対象となる利用者、グループメンバー、地域住民と専門的援助関係の基本となる関係を持つ。
- ・社会福祉施設等の利用動向等の統計情報を把握し、具体的に説明できる。
- ・社会福祉施設等における援助対象を客観的に把握する。
- ・インテークに不可欠な実習先のポジショニングを具体的に説明できる。
- ・社会福祉施設等におけるアセスメントのポイントや手順を具体的に説明できる。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）のニーズ、生活課題をアセスメントし説明できる。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）のプランニングに参加する。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）のモニタリングに参加する。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）について、利用者と家族の関係を力道的に把握し推論する。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）について、利用者の家族が抱えるニーズと生活課題を推論する。
- ・社会福祉施設等における対象への支援プロセスを具体事例にもとづき説明する。
- ・社会福祉施設等における利用者権利擁護の取り組みを例示する。
- ・社会福祉施設等におけるエンパワメント実践を抽出して説明する。
- ・社会福祉施設等における利用者等と適切なコミュニケーションをとる。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）との面接場面において、受容・傾聴・共感を基本とした援助関係の原則、及び要約・解釈・明確化・促し・沈黙・繰り返しなどの面接技術を活用する。
- ・社会福祉施設等に在る他職種とその業務内容・専門性を説明する。
- ・チームアプローチの必要性・方法について具体例をあげて説明する。
- ・社会福祉施設等で開催される会議の目的について具体的に説明する。
- ・社会福祉施設等の業務に関連する機関・施設などの役割と機能、及びそこでの専門職の役割と業務内容を列挙する。
- ・具体的な事例に即して連携が必要な機関・施設などを特定しその理由を説明する。
- ・実習先における苦情解決の流れを具体的に説明する。
- ・実習先における社会福祉士業務の中から、社会福祉士の価値・倫理判断にもとづく行為を発見抽出して説明する。
- ・社会福祉施設等における倫理的ディレンマの具体例を推論する。
- ・社会福祉施設等における個人情報保護・秘密保持の取り組みを具体的に説明する。
- ・社会福祉施設等の社会福祉士の業務内容を具体的に説明する。
- ・社会福祉施設等で用いられる文書について、用途に応じて種類を特定する。
- ・実習指導者の指導のもとで、利用者（特定ケース）について、実習先で用いられる日誌・ケース記録等に必要事項を記入できる。
- ・社会福祉施設等の業務の根拠となる法令や通知を特定できる。
- ・社会福祉施設等の意思決定過程（稟議の流れ等）を具体的に説明できる。
- ・社会福祉施設等の財源問題や財源確保の取り組み・工夫・経営努力を推論できる。
- ・社会福祉施設等のある地域（市町村・管轄区域・地区等）の人口動態、生活状況、文化・産業などを具体的に説明できる。
- ・事前学習を踏まえ、実習先のある地域（市町村・管轄区域・地区等）の福祉課題、生活問題を列挙できる。
- ・地域におけるインフォーマルな社会資源について、その役割も含めて列挙する。
- ・社会福祉施設等が行う行事の意義を説明できる。
- ・社会福祉施設等の地域への働きかけについて具体的に説明できる。

【授業形態】

指定期間に、指定の実習先において、実時間180時間以上の実習を行う（原則として欠席は認めない）。実習先は、学生の意向などを踏まえて指定する。その他詳細は、担当教員および実習先の実習指導者の指示に従う。

【授業計画】

回	日時	講義内容 (担当)	準備学習 (予習範囲)
1	4/3 (金) 1-2限	オリエンテーション	「社会福祉現場実習指導Ⅰ」の講義内容を復習。
2		指定期間に指定実習先機関・施設において実習	実習機関・施設の実習指導者および実習担当教員の指示による。

【成績評価の方法と基準】

実習計画書、日誌、まとめなどの成果物 (25%)、実習先機関・施設における評価 (50%)、び実習担当教員による個別評価 (25%) により総合的に評価する。

【使用テキスト】

特定に指定しない。

【参考文献】

必要に応じて適時紹介する。

科 目 名：社会福祉援助技術演習Ⅱ

担 当 教 員：高橋 英樹、中村 健、米澤 大輔

開 講 番 号：200DA404

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：1 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

社会福祉現場実習で体験したソーシャルワーク実践事例の分析・検討を中心に、ソーシャルワークを学習する。
※社会福祉関係の実務経験のある教員が、その経験を活かし、社会福祉現場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

社会福祉現場実習を通じて体験的に学習したソーシャルワーク実践の事例を分析・検討し、ソーシャルワークに関する理論や実践モデルと関連づけて言語化する作業を行う中で、ソーシャルワークを内在化し実践の力量を高める。

【学習の到達目標】

- ・社会福祉現場実習をとおして、自ら試行的に体験学習したソーシャルワーク実践の事例を分析し、既存のソーシャルワーク理論や実践モデルと関連づけて言語化する。
- ・実習前と実習後における自己覚知の内容の変化を言語化する。
- ・ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの重要性を具体的に説明する。
- ・知識レベルと技能レベルの面接技法を対比させ、技能レベルに高める必要性を例示する。
- ・実習において自ら作成した記録を分析・検討し、評価できる部分と不足している部分とをその理由を含めて具体的に説明する。
- ・ソーシャルワークの展開過程を内在化していくにはどのような経験と学習が必要か分析・検討して言語化する。

【授業形態】

3つの小グループに分かれ、教員の指導のもと演習形式で学習する。

【履修上の注意】

- ・授業前に提示する課題に対して、自らの考えをまとめた受けて授業に臨むこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	準備学習(予習範囲)
1	4/3(金) 5限	オリエンテーション	社会福祉援助技術演習Ⅰの復習。
2	4/24(金) 5限	ソーシャルワーク実践の検討①	社会福祉現場実習でのソーシャルワークの内容を想起して、何を学ぶかを口頭で説明できるよう準備する。
3	5/15(金) 5限	ソーシャルワーク実践の検討②	社会福祉現場実習でのソーシャルワークの内容を想起して、何を学ぶかを口頭で説明できるよう準備する。
4	5/22(金) 5限	ソーシャルワーク実践の検討③	社会福祉現場実習でのソーシャルワークの内容を想起して、何を学ぶかを口頭で説明できるよう準備する。
5	6/19(金) 5限	ソーシャルワーク実践の検討④	社会福祉現場実習でのソーシャルワークの内容を想起して、何を学ぶかを口頭で説明できるよう準備する。
6	7/24(金) 1-2限	ソーシャルワーク実践の検討⑤	これまでの授業を振り返り、社会福祉現場実習におけるソーシャルワーク実践の課題を口頭で説明できるよう準備する。
7	9/4(金) 1-2限	ソーシャルワーク実践の分析①	社会福祉現場実習におけるソーシャルワーク実践の内容を整理。
8	10/2(金) 1-2限	ソーシャルワーク実践の分析②	社会福祉現場実習におけるソーシャルワーク実践の内容を整理。
9	10/9(金) 1-2限	ソーシャルワーク実践の分析③	社会福祉現場実習におけるソーシャルワーク実践の内容を整理。
10	10/16(金) 1-2限	ソーシャルワーク実践の分析④	社会福祉現場実習におけるソーシャルワーク実践を振り返り、学修した事柄と今後の課題を口頭で説明できるよう準備する。

【成績評価の方法と基準】

提出レポートの評価(100%)で総合的に評価する。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

必要に応じて授業で紹介する。

科目名：社会福祉現場実習指導Ⅱ

担当教員：高橋 英樹、中村 健、米澤 大輔

開講番号：200DA405

開講学期：通年

水準：14

単位数：1単位

対象学部等：口腔生命福祉学科4年生

【科目概要】

実習担当教員を「スーパーバイザー」として、社会福祉現場実習における個別または集団的「実習スーパービジョン」を受ける。

※社会福祉関係の実務経験のある教員が、その経験を活かし、社会福祉現場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

社会福祉現場実習（相談援助実習、以下「実習」）により習得したと考えられる自らの実践力（専門的相談援助活動に不可欠な態度・知識・技能を実践の場面で適用していく力量）について、担当教員によるスーパービジョンを通してさらに深く内省し、自らの課題の解決を図る。

【学習の到達目標】

- ・自己覚知に基づく実習課題と社会福祉施設等に関する基本的な理解を踏まえて実習計画を作成する。
- ・自らの実習を振り返って課題に対する達成状況を自己評価し、社会福祉士として活動するために必要な実践力に照らし合わせて、残された課題を明らかにする。
- ・実習総括レポートの作成を通して、上記課題を的確に表現する。

【授業形態】

個別に担当教員と実習計画を作成し、さらに事前訪問時等の機会に実習先実習指導者を交えて計画について検討し確認する。その後、巡回指導等の機会に実習計画に沿って、実習先実習指導者を交えて実習体験の振り返りを行う。実習終了後には総括レポートを作成し、実習体験を言語化する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	5/1（金）1-2限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習計画書作成。
2	5/29（金）5限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習計画書作成。
3	6/12（金）5限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習計画書推敲。
4	6/26（金）5限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習計画書推敲。
5	10/30（金）1-2限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習日誌および実習のまとめの整理。
6	11/6（金）1-2限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習日誌および実習のまとめの整理。
7	11/20（金）1-2限	実習スーパービジョン（高橋、中村、米澤）	実習日誌および実習のまとめの整理。
8	11/27（金）1-4限	発表（高橋、中村、米澤）	発表準備。

【成績評価の方法と基準】

実習計画書、日誌、まとめなどの成果物（25%）、実習先機関・施設における評価（50%）、び実習担当教員による個別評価（25%）により総合的に評価する。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

科 目 名：保健医療制度

担 当 教 員：大内 章嗣、鶴本 明久（非）、杉本 智子（非）、深井 穰博（非）、桑原 真希（非）、安藤 雄一（非）、
廣川 光（非）

開 講 番 号：200DA406

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：2 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

我が国の医療保険や医療制度、保健施策について、現場の第一人者の講義を交えながら、最新の動向などについて学習するとともに、保健医療サービスのなかで医療ソーシャルワーカー（MSW）および歯科保健医療従事者が果たすべき役割を理解し、求められる知識・態度を身につける。

※歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士として実務経験のある教員が、その経験を活かし、現場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

医療機関等で従事する歯科衛生士（DH）、医療ソーシャルワーカー（MSW）に求められる医療保険制度（診療報酬請求事務を含む）の概要および医療提供体制や医療安全を確保するための取り組みと医療従事者に求められる役割について理解する。また、公衆衛生・地域保健サービスを含めた保健医療サービスの動向およびそこで求められるDH・MSWの役割と実際の業務について理解する。

【学習の到達目標】

- ・保健医療制度の体系と内容について概説できる。
- ・医療保険給付の内容と診療報酬請求・審査・支払いの流れについて概説できる。
- ・その他の医療保障（公費負担医療等）の内容について概説できる。
- ・保険医療機関における医療事務（診療報酬請求を含む）の内容およびそ手順について説明できる。
- ・医療機関における医療管理（医療法、薬事関係法、廃棄物処理法、個人情報保護法等、法に基づくものを含む）の内容と歯科衛生士・MSWに求められる役割について概説できる。
- ・近年の保健医療制度改革の内容（高齢者医療制度、医療費適正化計画、メタボリック対策、地域包括ケアを含む）と保健医療従事者に求められる役割について概説できる。
- ・保健医療サービスにおけるMSWの役割と他職種との連携を含めた実際の業務について概説できる。

【授業形態】

講義を基本とし、演習、グループワークを組み合わせて学習する。

【履修上の注意】

- ・内容により、診療報酬請求などの演習等も行うため、事前にメール等で指示された事前準備は必ず行っておくこと。
- ・近年、医療保険、医療制度は頻繁に改正が行われているので、新聞記事や厚生労働省HPなど、普段からその動向について注目しておくこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/10（金）3-4限	オリエンテーション 医療保険制度と診療報酬請求事務の実際1（大内）	診療報酬請求の流れについて整理しておく。
2	4/24（金）3-4限	医療保険制度と診療報酬請求事務の実際2（大内）	前回の授業内容について復習し、疑問点を整理しておく。
3	5/1（金）3-4限	医療情報の提供と医療安全対策（大内）	配付された医療安全マニュアル（ポケット版）の内容を通読し、要点を整理しておく。
4	6/26（金）3-4限	我が国の保健・介護予防サービスの概要と歯科保健医療（大内）	介護保険法における介護予防・日常生活自立支援事業について調べ、要点を整理しておく。
5	7/3（金）3-4限	医療機関におけるMSWの役割と業務の実際（桑原、廣川、大内）	厚生労働省保険局「医療ソーシャルワーク業務指針」を通読し、要点を整理しておく。
6	7/17（金）3-4限	新潟県の歯科保健医療対策（杉本）	新潟県庁HPで新潟県の歯科保健医療対策について調べ、要点を整理しておく。
7	9/25（金）3-4限	地域包括ケア演習（グループワーク）（大内）	地域包括ケアの目的、内容、構築のための取組について調べ、要点を整理しておく。
8	10/2（金）3-4限	特定健診・特定保健指導と生活歯援プログラム（深井）	特定健診・特定保健指導の目的・対象・実施内容・実施主体等について調べ、要点を整理しておく。

9	11/6 (金)	3-4限	生活習慣病・メタボリック対策と歯科保健 (安藤)	メタボリック対策、フレイル対策、サルコペニア対策の目的・診断基準・内容について調べ、それぞれの違いを整理しておく。
10	11/13 (金)	3-4限	地域における保健・予防プログラム展開の 実際 (鶴本)	Precede-Proceedモデルについて調べ、要点を整理しておく。
11	11/20 (金)	3-4限	まとめと試験 (大内)	これまでの授業内容を復習し、要点を整理しておく。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（選択式および記述式）（90％）および学習態度（10％）により総合的に評価する。

【使用テキスト】

指定しない。

【参考文献】

厚生労働統計協会 編「保険と年金の動向」(2,130円)

福祉士養成講座編集委員会 編「保険医療サービス」中央法規出版 (2,200円)

【参考Webサイト】

厚生労働省監修：厚生労働白書 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/

科 目 名：臨床歯科学Ⅳ

担 当 教 員：山崎 和久、小野 和宏、竹山 雅規、伊藤 加代子、中村 由紀

開 講 番 号：200DA407

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：1 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

小児歯科、歯科矯正、障害者歯科、口腔外科領域の疾患に対する原因・診断・治療法について小グループにより学習・調査し、その結果を発表して討論し、理解を深める。

※歯科医師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし、臨床の場で実践できる内容の授業を行う。

【科目のねらい】

実際の臨床の現場で対応できる知識を身につけるため、様々な疾患や病状を持った具体的なケースを題材としてグループで議論しながら、自ら考え、調査し、議論してグループメンバーと協力して与えられた課題を解決することを体験する。このような経験を通じて口腔領域の疾患の病態、全身と口腔疾患との関連、治療法を理解する。

【学習の到達目標】

- ・小児歯科学領域の疾患の原因、治療法、診療室における歯科衛生士の役割について説明できる。
- ・歯科矯正学領域の疾患の原因、治療法、診療室における歯科衛生士の役割について説明できる。
- ・障害者歯科領域の疾患の原因、治療法、診療室における歯科衛生士の役割について説明できる。
- ・口腔外科学領域の疾患の原因、治療法、診療室における歯科衛生士の役割について説明できる。

【学習方法・学習上の注意】

グループ学習（PBL）

具体的な症例が課題として学生に提示され、学生同士でグループ討論を行い、問題点を整理する。次に図書館やWeb上の資料を使って自主学習し、指導教員を交えて各自学習したことをもとにグループ討論を行い、そこで浮上した問題点・疑問点についてさらに自主学習する。

学習者が自ら問題点を発見し、その解決方法を見いだす能力を養う。

各回の準備学習の具体的内容については、初回授業時に指示する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/17（金）3-4限	シナリオ1提示と学習課題の設定、グループ討議	シナリオ1の内容予習および関連資料の確認。
2	5/8（金）1-2限	グループ学習	シナリオ1の学習課題の確認。
3	5/15（金）3-4限	グループ討議、シナリオ2提示と学習課題の設定	シナリオ1の学習課題の確認。 シナリオ2の内容予習および関連資料の確認。
4	5/29（金）1-2限	グループ討議、シナリオ3提示と学習課題の設定	シナリオ2の学習課題の確認。 シナリオ3の内容予習および関連資料の確認。
5	6/19（金）1-2限	グループ学習	シナリオ3の学習課題の確認。
6	6/26（金）1-2限	グループ討議、シナリオ4提示と学習課題の設定	シナリオ3の学習課題の確認。 シナリオ4の内容予習および関連資料の確認。
7	7/3（金）1-2限	グループ学習	シナリオ4の学習課題の確認。
8	9/18（金）1-2限	最終グループ討議、学生からの質問に答えるセミナー	発表の準備

【成績評価の方法と基準】

学習課題に関するレポート（100%）により評価する。

【使用テキスト】

指定しない。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

科目名：社会福祉行政

担当教員：中村 健

開講番号：200DA408

開講学期：通年

水準：14

単位数：1単位

対象学部等：口腔生命福祉学科4年生

【科目概要】

福祉行政及び福祉財政に関する基本的考え方と福祉計画の策定方法について講義及び演習により学習する。

【科目のねらい】

福祉の行財政の実施体制と実際の動向について理解する。また、福祉計画の意義や目的、主体、方法について理解する。

【学習の到達目標】

- ・福祉の行財政の実施体制における国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割について概説できる。
- ・福祉財政の動向について概説できる。
- ・福祉計画の意義と目的、主体と方法について説明できる。
- ・福祉計画策定の実際について演習を通して模擬的に計画立案できる

【授業形態】

講義と演習を中心として学習し、知識の習得や行政組織に対する理解をするだけでなく、計画立案能力を涵養する。

【授業計画】

回	日時	講義内容(担当)	準備学習(予習範囲)
1	6/5(金) 1-2限	福祉行政の実施体制(中村)	市役所の福祉部門について調べる
2	6/12(金) 1-2限	福祉行政の動向(中村)	福祉行政の動向について要点整理
3	9/18(金) 3-4限	福祉計画の意義と目的、福祉計画の主体と方法(中村)	福祉計画の意義と目的、福祉計画の主体と方法について要点整理
4	9/25(金) 1-2限	福祉計画策定の実際について演習(中村)	福祉計画策定の実際について復習

【成績評価の方法と基準】

学習の理解度を量るレポート(80%)と演習発表などの授業参加度(20%)により評価する。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

社会福祉士養成講座編集委員会 編「新・社会福祉士養成講座第10巻 福祉行財政と福祉計画」中央法規出版(2,200円)

科 目 名：社会福祉経営

担 当 教 員：中村 健、大内 章嗣、小林 泰訓（非）

開 講 番 号：200DA409

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：1 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

福祉サービスに係る組織や団体の理解と福祉サービスの経営の基本的理解を学習する。

【科目のねらい】

福祉サービスに係る組織や団体の役割を理解した上で、サービスの経営や管理運営に係る基礎理論と実際について理解する。

【学習の到達目標】

- ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、市民団体）の定義、役割、実際等について概説できる。
- ・組織、経営、管理運営に関する基礎理論について概説できる。
- ・集団の力学、リーダーシップの基礎理論について概説できる。
- ・福祉サービス提供組織におけるコンプライアンスとガバナンスについて説明できる。
- ・福祉サービス提供組織における人材の養成と確保について概説できる。
- ・福祉サービス提供組織における労務、財務、会計の管理について説明できる。

【授業形態】

講義と演習を中心として学習することで、知識の習得や社会福祉サービスに対する理解をするだけでなく、サービスの経営や管理の基礎を身につける。

【履修上の注意】

- ・日ごろからニュースに接し新聞をよく読み、社会福祉法人の動向や厚生労働省・地方自治体等の行政動向に関する時事問題に関心を持ち、調べておくこと。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	10/9（金）3-4 限	福祉サービスに係る組織や団体（中村）	社会福祉法人とは何かについて調べる
2	10/16（金）3-4 限	福祉サービス提供組織の経営と実際（中村）	福祉サービス提供組織の経営について要点整理
3	10/23（金）3-4 限	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論（大内）	福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について要点整理
4	10/30（金）3-4 限	福祉サービスの管理運営とその方法の実際（小林）	福祉サービスの管理運営とその方法について要点整理

【成績評価の方法と基準】

理解度を量るレポート（40%）および小テスト（40%）と意見発表等の授業参加度（20%）により評価する。

【使用テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

必要に応じて授業内で紹介する。

科 目 名：口腔保健福祉特論（社会福祉原論Ⅱ／高齢者福祉論Ⅱ／障害者福祉論Ⅱ／児童福祉論Ⅱ／歯科衛生学Ⅱ）

担 当 教 員：黒川 孝一、大内 章嗣、高橋 英樹、小野 和宏、葭原 明弘、山崎 和久、吉羽 邦彦、
Stegaroiu Roxana、柴田 佐都子、中村 健、米澤 大輔、諏訪問 加奈、小田島 あゆ子

開 講 番 号：200DA410

開 講 学 期：通年

水 準：14

単 位 数：2 単位

対 象 学 部 等：口腔生命福祉学科 4 年生

【科目概要】

口腔保健福祉に求められる知識の理解と実践のために、担当教員と課題の設定を行い、課題に基づく演習（文献検索、1次資料からの調査等）を行い、論文形式の報告書を作成し総合的に学習する。次回までの準備学習の内容は各担当教員からその都度指示される。

【科目のねらい】

- ・保健・医療・福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、これらを総合的に理解する。
- ・口腔保健福祉分野に関する課題を設定し、その求められる基本的知識について理解する。
- ・分野ごとの体系及び基本的なあり方について理解する。

【学習の到達目標】

- ・保健・医療・福祉の各分野を統合した視点で、選択した分野科目において設定した課題を体系的に位置づけ説明することができる。
- ・選択した分野相互の関連性についてその概略を説明できる。
- ・背景と問題、主張と結論、論拠と事実・データ、対立意見の検討を論述した報告書を作成できる。
- ・全体構成、表現ルールを考慮した報告書を作成できる。
- ・報告書に基づき、その概要を説明することができる。

【授業形態】

社会福祉原論 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童福祉論 歯科衛生学 の各分野ごとに担当教員と課題を設定し、演習を行い、その結果を報告書にとりまとめる。
報告書作成にあたり、出典を明記する。

【授業計画】

回	日時	講義内容（担当）	準備学習（予習範囲）
1	4/2（木）5限	オリエンテーション、研究倫理講習（黒川・葭原・小野）	詳細はオリエンテーションにおいて教員から指示する
2	4/17（金）1-2限	課題（テーマ）設定に関する討議・演習・自習・まとめ（教員全員）	担当教員から前回指導された内容について学習
3	5/8（金）5限	課題（テーマ）設定に関する討議・演習・自習・まとめ（教員全員）	担当教員から前回指導された内容について学習
4	6/5（金）3-4限	課題（テーマ）設定に関する討議・演習・自習・まとめ（教員全員）	担当教員から前回指導された内容について学習
5	6/12（金）3-4限	課題（テーマ）設定に関する討議・演習・自習・まとめ（教員全員）	担当教員から前回指導された内容について学習
6	10/23（金）1-2限	演習成果中間報告作成（黒川）	事前配布された中間成果物について学習
7	11/13（金）1-2限	課題（テーマ）設定に関する討議・演習・自習・まとめ（教員全員）	担当教員から前回指導された内容について学習
8	12/4（金）1-4限	総合発表、討論（教員全員）	事前に作成した発表内容について学習

【成績評価の方法と基準】

背景と問題、主張と結論、論拠と事実・データ、対立意見の検討、全体構成、表現ルールの各項目について論文形式の報告書を評価する（90%）。また各提出期限の遵守・発表に対する評価を行う（10%）。

【参考文献】

指導教員が指定する。できるだけ、多くの文献、書籍を検索することを薦める。

【参考Webサイト】

科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－ <https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html>